

相談員日記

浪江町 健康保険課 放射線対策係

放射線相談員 長谷川 達哉 様

令和2年度より浪江町健康保険課放射線対策係の放射線相談員に着任し、主に放射線に関する相談対応を行っています。窓口や電話での対応を中心に、相談内容によっては自宅に訪問して直接話を伺ったり、その場で線量測定を行ったりすることもあります。また、そのほかに各種線量計の貸し出しや測定結果の説明、浪江町役場本庁舎で実施している自家消費野菜等の放射能検査の受付管理や結果説明なども行っています。

相談対応の際は「科学的な安全」が必ずしも「安心」につながるとは限らないことを心に留めています。例えば、放射線による健康影響の指標となる数値でも、人によって高いと感じる方もいれば低いと感じる方もいます。また、自分のみのことであればそこまで気にならない数値でも、身内に関わる場合では捉え方がより慎重になることもあります。そのため、相談者の声を聞きながら、それぞれの立場や心情に寄り添って話すことを心がけています。

以前、県外に避難されている方から「避難先の知人から、浪江町に行くと大量の放射線を浴びてしまい、体に悪影響が出るため、一時帰宅するのも危険だと言われたが、実際のところどうなのか」と相談を受けたことがありました。その際は、まず相談を受けた当時の浪江町の空間線量率について説明した上で、個人線量計を使用することを提案しました。それから実際に個人線量計を一定期間使用してもらい、自宅での実測値と浪江町の居住可能区域での実測値を比較したところ、被ばく線量に大きな違いはありませんでした。相談者にこの結果を説明すると、だいぶ安心した様子でした。この時、相談者自身に測ってもらうことの効果や個人線量計の貸し出しを行うことの意義を感じました。

放射線に関する相談件数は年々減少傾向にあるように感じますが、個人の生活に密接した相談が増えてきている印象を受けます。例えば、現在では浪江町全体の放射線量に関する相談よりも、自宅付近の神社や散歩コースの放射線量が気になるなど、より身近な所への関心が高い様子です。

今後も相談対応等の活動を通じて、放射線に対する不安軽減につながるよう努めるとともに、避難されている方が一人でも多く前向きに帰還を検討できるような環境づくりを町一丸となって行っていきたいです。

